

令和 6 年度教育・保育施策アンケート
集計結果

千早赤阪村教育委員会

概要

村内のげんきこども園、小中学校の保護者を対象に、村の教育・保育施策に関するアンケート調査を実施。今年度のアンケート方法は LoGo フォーム（二次元コードによる Web 回答）と紙を併用し、各学校園には二次元コードを印刷したアンケート用紙を配布し、アンケートを依頼した。

アンケート配布期間：令和 6 年 12 月 2 日（月）～24 日（火）

アンケート回答率：65.1%（125 世帯/192 世帯）

居住地別回答数

	令和 6 年度		令和 5 年度	
森屋	 27	22%	 18	24%
水分	 13	10%	 12	16%
桐山	 2	2%	 2	3%
二河原辺	 1	1%	0	0%
川野辺	 5	4%	 4	5%
吉年	 5	4%	 1	1%
小吹	 17	14%	 6	8%
中津原	 1	1%	0	0%
東阪	 13	10%	 6	8%
千早	 2	2%	 2	3%
小吹台	 37	30%	 24	32%
未回答	 2	2%		
計	125		75	

児童・生徒学年別回答数

こども園	
0歳児クラス	 5
1歳児クラス	 8
2歳児クラス	 11
3歳児クラス	 8
4歳児クラス	 11
5歳児クラス	 11

小学校	
小学 1 年生	 15
小学 2 年生	 11
小学 3 年生	 20
小学 4 年生	 13
小学 5 年生	 12
小学 6 年生	 19

中学校	
中学 1 年生	 13
中学 2 年生	 15
中学 3 年生	 19

回答内容集計

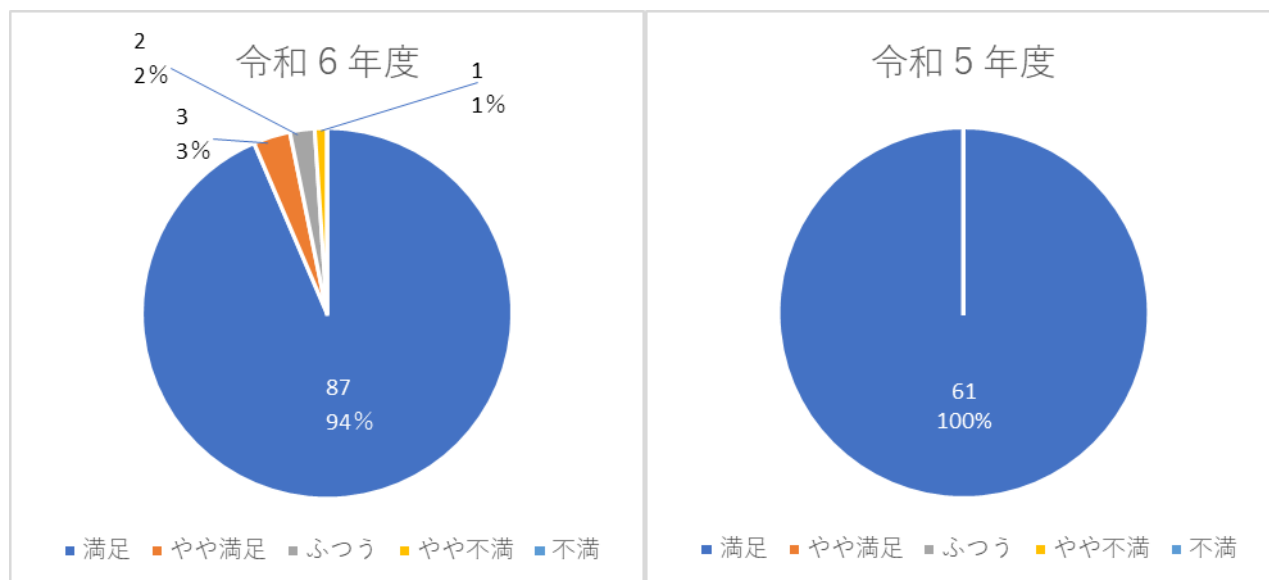
		令和 6 年度	令和 5 年度
問 1-1 給食費の無償化満足度	満足	87	61
	やや満足	3	0
	ふつう	2	0
	やや不満	1	0
	不満	0	0
問 1-2 給食費無償化の継続	継続すべき	63	45
	継続すべきではない	2	3
	わからない	28	13
問 2 英語教育の有効事業	ALT	68	48
	英検	52	35
	TV会議等海外交流	45	35
	体験型英語教育	46	33
	海外派遣	-	-
	どの事業も当てはまらない	2	1
	その他	13	4
	未回答	2	-
問 3-1 保育料・副食費の無償化	満足	35	22
	やや満足	8	6
	ふつう	1	1
	やや不満	0	0
	不満	1	0
問 3-2 保育料・副食費の継続	継続すべき	38	28
	継続すべきではない	0	0
	わからない	6	1
	その他	1	-
問 4 Wi-Fi環境の有無	Wi-Fiあり	124	74
	Wi-Fiなし	1	1
	未回答	0	0
問 5 出欠アプリの活用	利用したい	110	66
	利用したいが環境がない	0	0
	利用したいと思わない	11	9
	その他	4	0
問 6 小学校のあり方	2校維持	25	-
	いずれ統合	54	-
	早く統合	41	-
	その他	5	-

質問 1-1

村では令和 2 年度から、新型コロナウイルス感染症対策として保護者の経済的負担の軽減を図るため、給食費の無償化を実施しています。無償化に満足してますか。

結果

		令和 6 年度		令和 5 年度	
給食費の無償化満足度	満足	87	94%	61	100%
	やや満足	3	3%	0	0%
	ふつう	2	2%	0	0%
	やや不満	1	1%	0	0%
	不満	0	0%	0	0%
	計	93		61	



学校給食無償化に関するご意見

財源の確保と工夫

- ・ 役所の人員削減や観光振興などで財源を確保すべき。
- ・ 子どもが減ることで必要な費用も減少すると考えられる。

子育て支援の重要性

- ・ 物価上昇により生活が厳しく、経済的負担軽減のため継続が必要。
- ・ 母子家庭や多子世帯にとって特に助かる支援。
- ・ 子どもたちが安心して学び、成長できる環境を守るべき。

地域活性化と移住促進

- ・子育て支援の充実が移住の魅力につながる。
- ・教育環境の強化により、地域の定住促進や税収増加も期待できる。

村の魅力としての給食

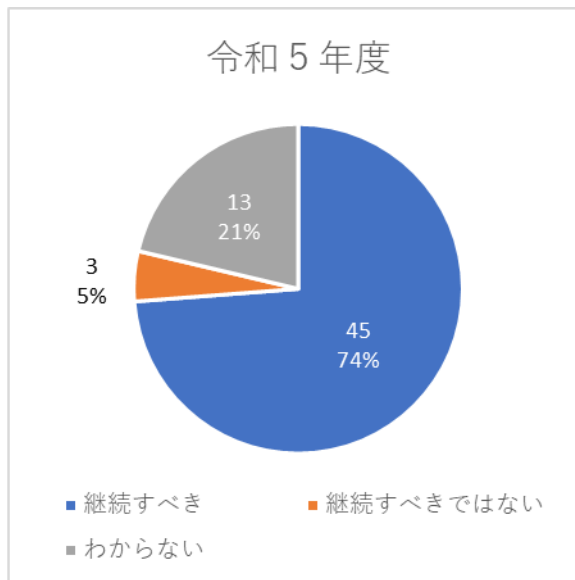
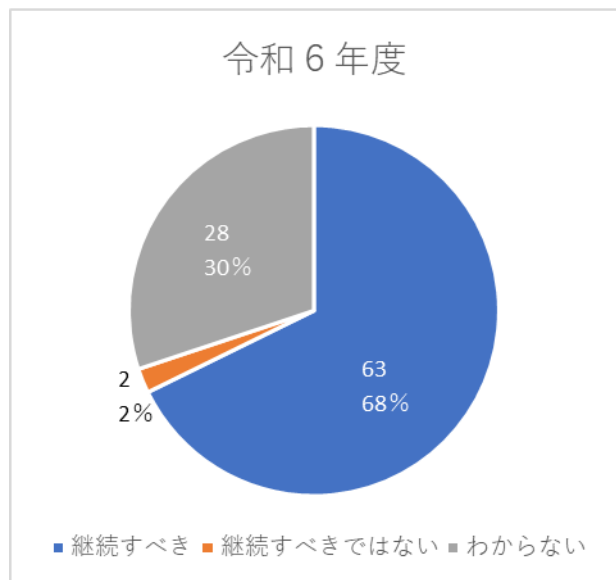
- ・地産地消で地域経済にも良い影響を与えている。
- ・給食を楽しみにしている子どもが多く、継続すべき。

質問 1-2

社会保障経費等の増額により、本村の財政状況も今後厳しい状況になると予想されますが、給食費の無償化は継続すべきだと思いますか。

結果

		令和 6 年度		令和 5 年度	
給食費無償化の継続	継続すべき	63	68%	45	74%
	継続すべきではない	2	2%	3	5%
	わからない	28	30%	13	21%
	計	93		61	



学校給食無償化の継続に関するご意見

継続を希望する意見

- ・子育てにはお金がかかるため、経済的負担が軽減されて助かる。
- ・物価高の中、家計の負担を減らせるのでありがたい。

- ・ 美味しい給食が提供されることに感謝している。
- ・ 村の魅力の一つになっており、移住者の増加にもつながる。
- ・ 地産地消の給食は地域にも貢献している。
- ・ 給食費を削減できた分、他の教育費や生活費に回せる。
- ・ 継続することで、子どもの健やかな成長につながる。

財源や運営に関する意見

- ・ 自治体の財源不足が心配だが、観光収益など他の方法で補えないか。
- ・ 役所の人員削減などで財源を確保できるのではないか。
- ・ 子育てで支援を充実させることで、人口減少を食い止められる可能性がある。
- ・ 無償継続が難しい場合、一部自己負担を導入するなど柔軟な対応も検討してほしい。
- ・ 必要のない支出を削減し、給食の無償提供を優先してほしい。

継続を疑問視する意見

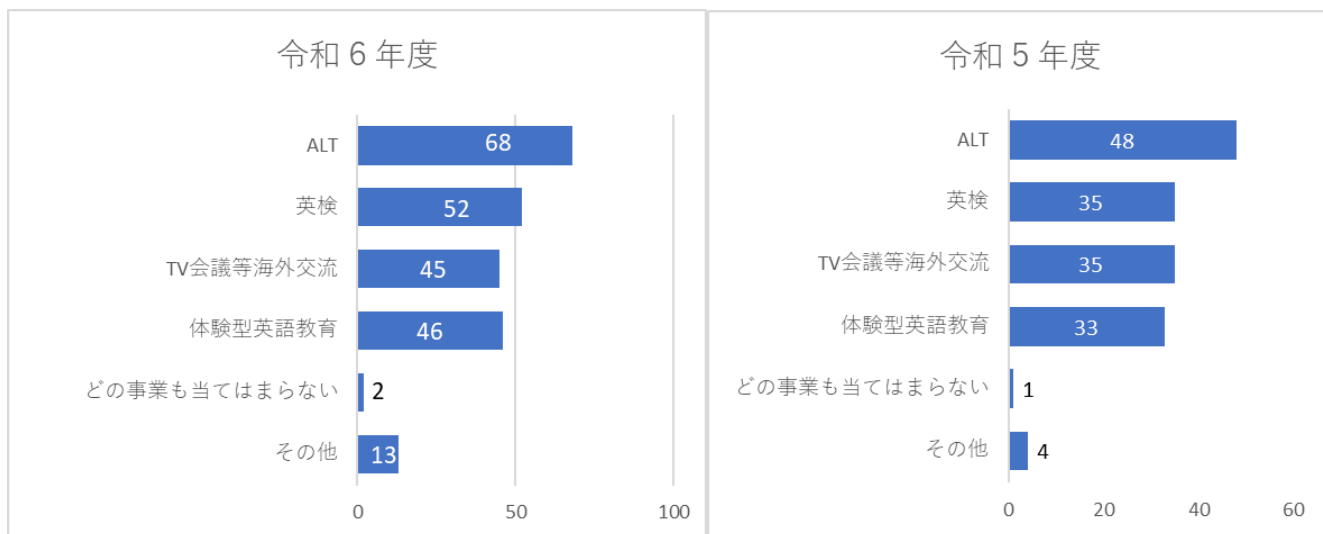
- ・ 財政が厳しい中で、無償のままで良いのか再検討が必要ではないか。
- ・ 給食費の一部負担を求めることで、財政的な負担を軽減できるのではないか。
- ・ 他の住民サービスにも影響する可能性があり、慎重に判断すべき。

質問 2

英語教育について、次のどの事業が有効だと思いますか。（複数回答可）

結果

		令和 6 年度		令和 5 年度	
英語教育の有効事業	ALT	68	54%	48	79%
	英検	52	42%	35	57%
	TV 会議等海外交流	45	36%	35	57%
	体験型英語教育	46	37%	33	54%
	どの事業も当てはまらない	2	2%	1	2%
	その他	13	10%	4	7%
	未回答	2	2%	－	－
	回答数	125		61	



その他ご意見

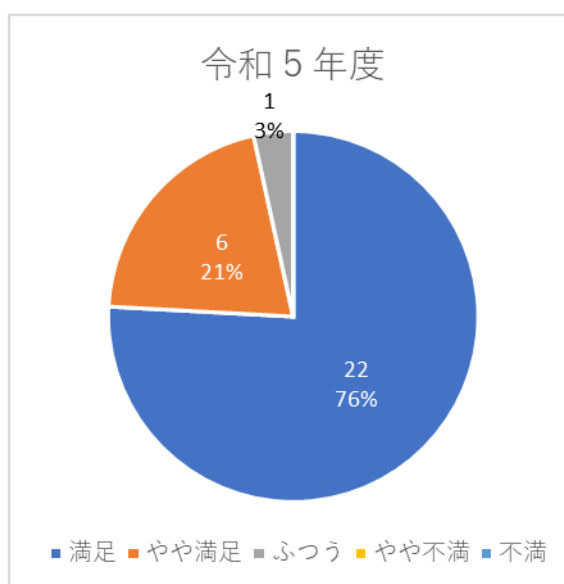
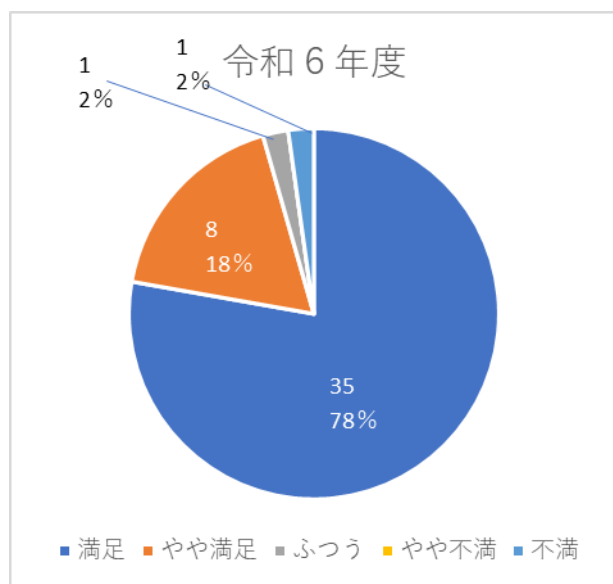
- ・ 以前行っていた海外留学助成
- ・ 英語の授業・カリキュラムを増やす。
- ・ 海外派遣事業
- ・ 上手い下手関係なく、どんどん単語を使っていけばいい。
- ・ 補助の先生が多すぎる、年配の補助は役に立つのか。

質問 3-1

村では令和元年 10 月から、安心して子育てができる環境の向上を図るとともに、保護者の経済的負担の軽減を図るため、村独自の施策として、0 歳児から 2 歳児クラスの世帯の保育料の無償化および全未就学のすべての世帯の副食費の月 4,800 円補助を実施しています。無償化や補助に満足していますか。

結果

		令和 6 年度		令和 5 年度	
保育料・副食費の無償化	満足	35	78%	22	76%
	やや満足	8	18%	6	21%
	ふつう	1	2%	1	3%
	やや不満	0	0%	0	0%
	不満	1	2%	0	0%
	計	45		29	



保育料の無償化および副食費補助に関するご意見

満足

- ・ 経済的負担が軽減され、助かっている。
- ・ 物価高騰や税負担が増える中で、大きな支援になっている。
- ・ 貯蓄ができるようになり、精神的にも安心できる。
- ・ 移住促進につながる可能性がある。
- ・ 収入が少ない家庭にとって特にありがたい。

やや満足

- ・ 主食費（2,000 円）や副食費も全額補助してほしい。
- ・ 現在の補助には感謝しているが、さらなる支援が望ましい。

不満

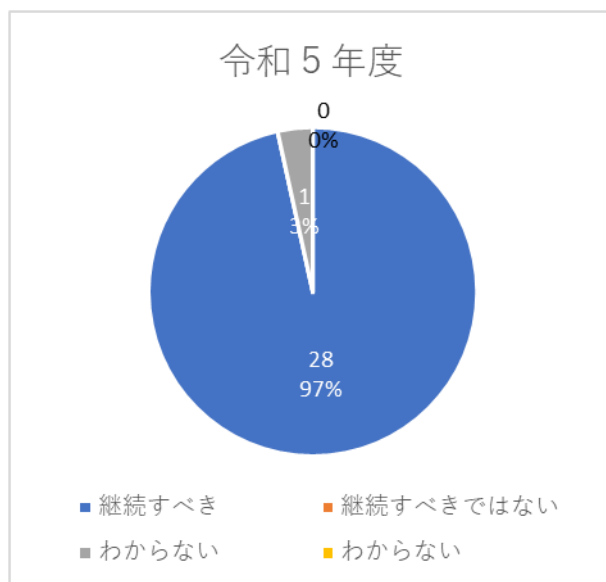
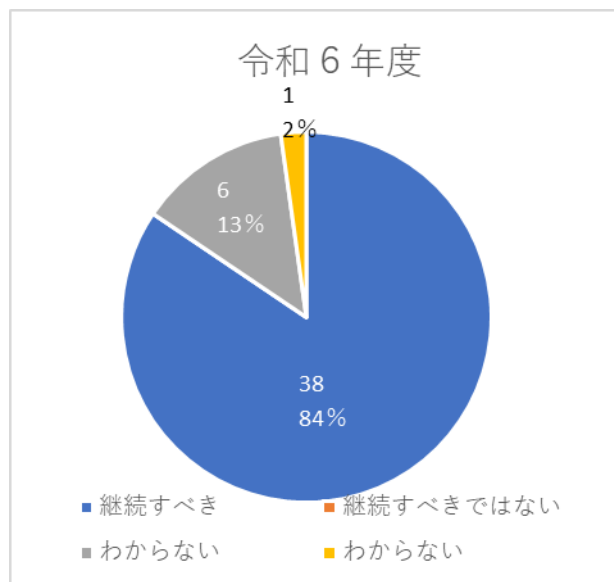
- ・ 「無償化」と言いながら、実際には一部負担が発生している。

質問 3-2

社会保障経費等の増額により、本村の財政状況も今後厳しい状況になると予想されますが、保育料の無償化や副食費の補助は継続すべきだと思いますか。

結果

		令和 6 年度		令和 5 年度	
保育料・副食費の継続	継続すべき	38	84%	28	97%
	継続すべきではない	0	0%	0	0%
	わからない	6	13%	1	3%
	その他	1	2%	0	0%
	計	45		29	



保育料の無償化および副食費補助の継続に関するご意見

継続すべき

- ・ 独自の取り組みであり、子育て支援が村の魅力の一つになっている。
- ・ 子どもの減少が進む中、支援をやめるとさらに過疎化が進む。

- ・ 子どもが多い家庭にとって助かる支援であり、継続が望ましい。
- ・ 子育て支援があることで移住者増加につながる。支援がなくなると村を離れる家庭が増え、結果的に財源も減少する可能性がある。
- ・ 村の将来を考えると、子育て世代のサポートは必要不可欠で、より充実させるべき。

わからない

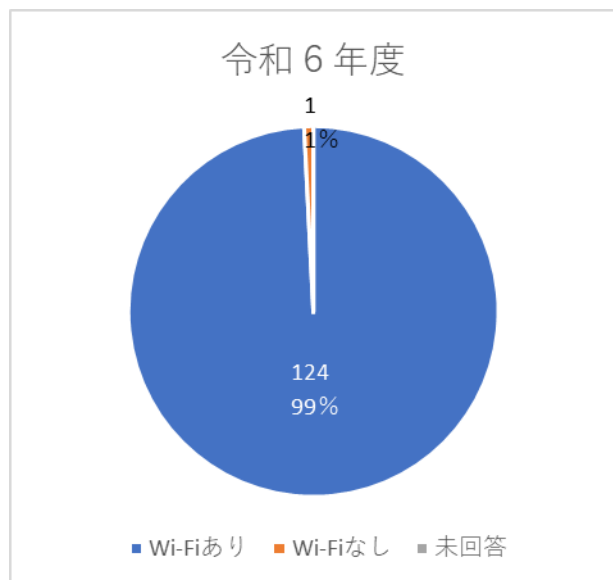
- ・ 他の自治体のように「2人目半額、3人目以降無償」などの制度を検討すべき。
- ・ 支援はありがたいが、村の財政を圧迫してまで続けるべきか慎重に考える必要がある。

質問 4

インターネットへの接続に Wi-Fi 環境はありますか。

結果

		令和 6 年度		令和 5 年度	
Wi-Fi 環境の有無	環境あり	124	99%	74	99%
	環境なし	1	1%	1	1%
	未回答	0	0%	0	0%
	計	125		75	

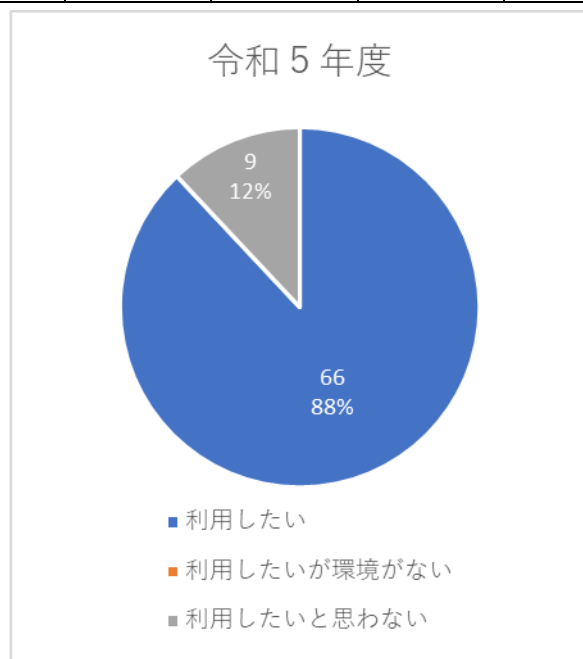
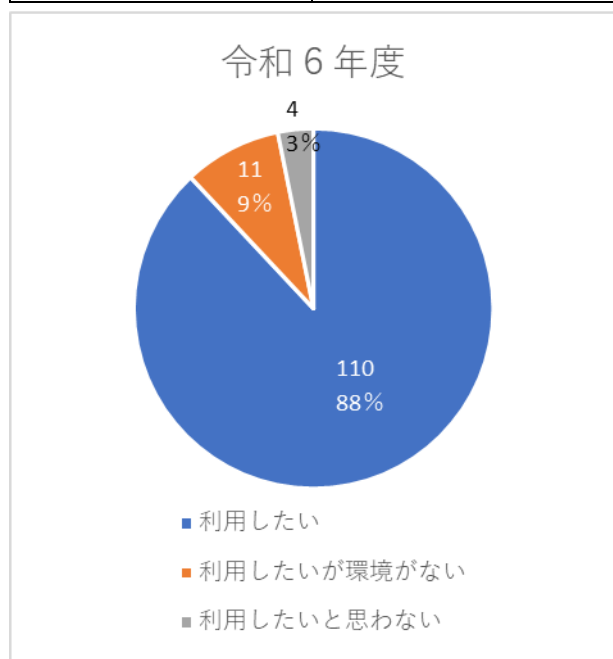


質問5

他市では児童生徒の出欠や学校からの連絡を、スマートフォンの専用アプリを活用している学校もあります。このような専用アプリ等を利用したいと思いますか。また利用できる環境はありますか。

結果

		令和6年度		令和5年度	
出欠アプリの活用	利用したい	110	88%	66	88%
	利用したいが環境がない	11	9%	0	0%
	利用したいと思わない	4	3%	9	12%
	計	125		75	



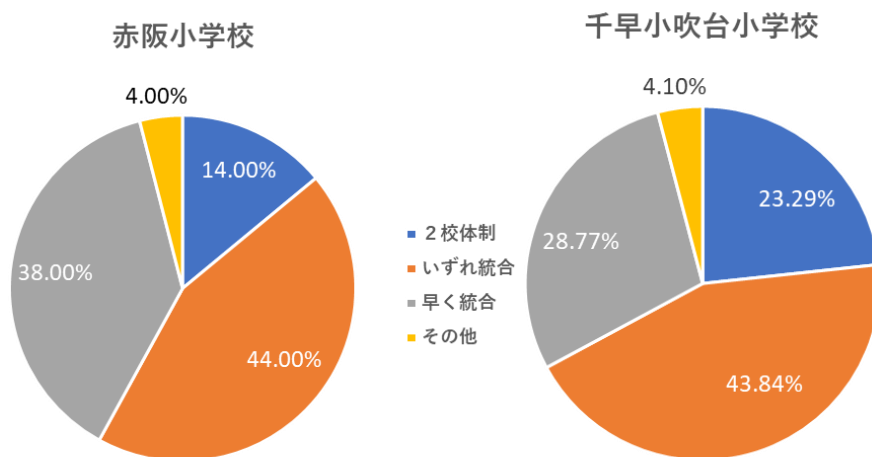
その他ご意見

- ・ 高校の出欠は全てスマホです。電話連絡の手間もはぶけ、先生方の負担も少なくなると思います。

質問6

現在、千早赤阪村には小学校が2校あります。現段階で、今後の小学校のあり方についてどのようにお考えですか。

結果



赤阪小学校	主な意見（要約）
【2校体制維持】 または 【いずれ統合】	緊急時の対応：万が一の事情発生時に助けられる生徒が出てくるため、安全性が高まる。 人間関係の多様性：中学校まで同じ学校に通うと人間関係が固定化してしまう可能性がある。 なお、性別に配慮している場合、男女比が偏っていても大きな問題にはならないと考えられている。 通学環境：自宅から近い学校に通わせたい。統合した場合、通学が遠くなることや通学面での負担増。 教育の質の維持：少人数でのクラス編成で先生の目が行き届いた教育が可能。厚いサポートが提供される感じている。
【早く統合】	人間関係の構築、固定化：少人数のため、子どもたちは人間関係を築く機会が限られ、将来の人格形成に影響を及ぼす可能性がある。 学校行事の活気：少人数による学びの幅が狭く学校行事の活気が欠け、他学年との合同授業や集団生活で経験できることが限られる。 未来への準備：今後の情勢に備えて、早期に問題を明確にし、対応策を進める必要がある。 こども園との連携：こども園で仲良くしていた子どもたちが、小学校で別々になる必要性を感じない。

千早小吹台小学校	主な意見（要約）
【2校体制維持】 または 【いずれ統合】	1. 通学環境：統合によって通学手段や環境が変わることが、子どもや大人にとって負担となる。通学が遠くなるとバス利用の維持費もかかる。2校のままだと学校が近く、親が手厚く子供を見守れる環境が作られる。万が一のときにもすぐに対応しやすい。 2. 細やかな指導や教員の質と安定：少人数制で一人ひとりに目が届きやすく、細かい指導が可能。現状の教員の質に満足しており、統合による質の低下を懸念する。 3. 子どもの多様性と社会性：長期間同じメンバーで過ごすことの多様性不足や、孤立した場合の対応を懸念する。児童数が減少し、少人数クラスが増えた場合に統合が進められるべき。現状の2校があることで、学校間での交流があり、刺激があり学びの幅が広がり、トラブルがあっても避けられる。 4. 避難所としての機能：両小学校が避難場所に指定されているため、災害時の安全を考慮しても2校体制は必要。 5. 地域ごとの特徴を尊重：タウンミーティングを繰り返し、急がず時間をかけて進めるべき。
【早く統合】	1. 人間関係の向上：現在、児童数が少ないため、2つの学校を維持する必要性が薄く、統合して1校にまとめた方が効率的。統合することで、学年内での同性の割合が偏らず、より豊かな人間関係を築ける。 2. 将来的な統合の必要性：少子化や子ども世代の減少を踏まえ、いずれ統合は避けられない。地域内での不安を解消するため、村として統合の方向性を早期に示し、前向きに統合の議論を進め、安定した環境を提供するべき。 3. 成長機会の増加：少人数では学べることが限られ、競争心が養われにくい。統合によって子どもたちがより多くの経験や「普通」の体験をさせることができる。 4. 保育園からの一貫性：保育園で過ごした子どもたちが小学校で友達と離れるのは可哀想。

質問7

最後に、本村の教育・保育について、何かご意見・提案などがあれば、自由にご記入ください。

結果

下記は、千早赤阪村の教育・保育に関する自由意見のうち、複数同様の意見があったものです。

1. 教育環境と教育プログラムに関する意見

- 少人数教育のメリット 複数の保護者が、少人数教育のメリットを強調している。特に、子ども一人ひとりをよく見守り、子どもの特性に合った、手厚い指導が行われていることに感謝する意見が数多く見られた。小・中学校では、児童生徒数に対して教員数が多く配置されており、個に応じた対応がなされている点が評価された。
 - 競争心と学力の向上 村外の学校と比べると、競争心が低いと感じる保護者もあり、特に、学力面での向上が課題として挙げられた。また、小学生の英検受験や、英語をもっと身近に学べる環境を整備することなど、英語教育の強化を望む意見があった。
 - 学校施設等の改善 中学校のトイレが汚いとの指摘や、中学校体育館に空調がないこと、B&G 体育館施設の空調設置など、施設面での改善を求める声があった。長期欠席時や不登校支援のため、自宅等でもタブレットを使って授業を受けられるように整備を進めるなど、より柔軟な対応を求める声があった。
-

2. 学童保育に関する意見

- 学童保育の運営について 学童保育に関して、保護者主体の運営に負担を感じている保護者があり、特に、共働きで学童保育を利用している家庭にとって、運営負担や事故対応に不安があり、自治体の運営への移行を望む声があった。
-

3. 移住促進に関する意見

- 子育て施策の充実や教育の質の向上 移住者を増やすためには、子育て施策の充実や教育の質を高める取り組みが重要だとする意見が複数あった。